0040317000

0040317-000

特２６８－１２３

美唄市街大火並復興記念写真帖

小松写真館

昭和１３

AGI

特268
123

井 8
123

世界的人人床の問題
防衛問題研究会報

特 268
123

序

農産物産の一大生産地として伸びゆく美唄町の中核を爲し飛躍に飛躍を重ねつゝあつた我美唄市街地は昭和十二年五月一日烈風中風上の榮通より火を發し見る見る紅蓮の焔となり或は渦卷き或は大地を逋逼し町内消防組各種團體は固より近隣町村應援消防隊必死の活動も其の効を奏せず連日の旱天に乾き切つた中央目抜の商店街に櫛比する大小商店三百七十二戸を焼き盡し其の被害は一般損害に於て百七十萬七千四百七十五圓營造物に於て二萬五千四百圓合計百七十三萬二千八百七十五圓の巨額に上つたのであります。

記錄に依りますと「午後四時頃には精魂の限りをつくして協力防火に當つてゐた群衆も今は既に防ぎ敢へず と犇めき合つて逃れ漸く路上に搬出された家財道具も唯空しく執拗な猛火の手に委ねられ阿鼻叫喚の聲が巷に充滿してゐた」とあつて凄愴の狀言はん方なきものがあつたのであります。

× ×

顧みるに本美唄市街の開拓は遠く屯田兵制時代に胎胚し其の後町民辛苦經營の歷史を刻み十年玆に全道屈指の活力溢るゝ街の名聲を博し前途を嘱目せられてゐたのでありますが如何ともし乍ら一朝にして之を廢墟と化し一千九百の罹災民を路頭に彷徨せしめ悲嘆のどん底に打沈ましめたことは何とも天の恨でありませうか。この悲報一度飛ぶや全道民に一大衝動を與へ愈然として同情の聲が湧き起つたのであります。卽ち北海道廳、各有力新聞社、官公立病院、各市町村は災火猶終熄せぬ夜半直に遥かに救援の手を伸べられ傷病者の或は乳幼兒の救護に又は一般避難民の救助に至らざるなき御援助を惜しみうしたのであります。卽ち一、炊出及副食物の配給給與 二、臨時避難所の急造 三、生活困難者共同バラック設置 四、救恤品及復興材料輸送運賃減免 五、就學奬勵金交付 六、臨時學校給食實施 七、食料費給與 八、就業費給與 九、小屋掛費給與 十、學用品費給與 一一、慰問金贈呈等でありまして就中感謝に堪へなかつたことは義捐金として寄贈せられたる現金三萬七千六百七十三圓と莫大なる救恤品でありました。

これらは社會江湖の心暖かなる同情の賜物でありまして罹災民一同は深く感謝いたしまして必ずやこの厚志に對し固く銘ゆる所のあらんことを期したのであります。

時、冷春の氣未だ去りやらずこの慘事を哀しむが如く日々降雨つゞきでありまして、起ち上るぞと誓つた復興信念も動もすれば亂れ勝ちになるのでありましたが復興會の活動目覺しく之に依つて强く退嬰の心に鞭打ちつゝ一路復興に進發いたしたのであります。

爾來歲月を閲すること一ケ年國家の非常時を反映してこの復興の事業も幾度か阻まれ勝ちでありました。例へば物價高騰に處しての復興材の供給道路整理計畫、下水溝の完備、消防所の建築、復興住宅建築資金の借入轉貸等は一方ならぬ苦心を致したのでありまするが兎も角これらの懸案は玆に達成を見まして本日見る新興都として堂々昔日に勝る景觀を現出いたしたのであります。具さに此の努力の跡を振り返つてみまするときこの超速度的な復興を世人は驚異して居ります。然して世人はこれを以て我町民の不撓不屈の彈力心を稱讃いたしてをるのであります。

我々にとつて昭和十二年五月一日は永久に牢記すべき日であります。然してこれは單に悲むべき記憶の日としてのみにあらず眞裸の人間として復興の第一歩を踏み出した更生進發の日として永く心に憶へられむことを私は切望いたすのであります。尙現在市街の復興の地位といふ問題を考えるならば大美唄建設の道程途上に於けるほんの序曲を奏でゝゐるのに過ぎぬ所でありまして我々は決してこの現狀に滿足することなく更に燃ゆる意氣溢るゝ力を以て復興戰士として勇渾全力を傾倒して進まねばならぬのであります。詳細なる復興經過に就きましては後日を期して細大輯錄致し大方各位の參考の資に供したい考えであります るが玆に大火復興記念寫眞帳を刊行するに當り謹んで社會江湖の御同情を拜謝し其の序と致す次第であります。

昭和十三年十二月

美唄町長　本庄英次

昭和十二年五月一日の大火こそ吾人の永久に忘る能はざるものである。今や大火の洗禮を受けた美唄市街は着々と其の新建設に向つて輝かしい巨歩をつゞけてゐるが新しき力溢るゝ復興の影に過ぎし日の災禍の凄愴なる面影は何時迄も消え去り難きことであり、これこそ記錄して永く後世に胎すべきものである。

この意味に於て本書の刊行を計畫せる所大方各位の絶大なる御支援を忝うしたることは編者の深く光榮とする所である。

當初寫眞は嚴選主義で臨む方針であつたが何れも割愛するに忍び難く蒐集の全部を玆に輯錄する次第である。尙本書刊行に當り永山空知支廳長殿、本庄美唄町長殿より題字序文を寄せられたること、美唄町役場並に美唄警察署より種々御指導を與へられたること及各新聞社の御厚志に依る貴重なる寫眞を加へて紙上に一段の光彩を飾り得たることを特に附記して謹んで感謝の意とする次第である。

昭和十三年十二月

編者識

雄志情義

印張題

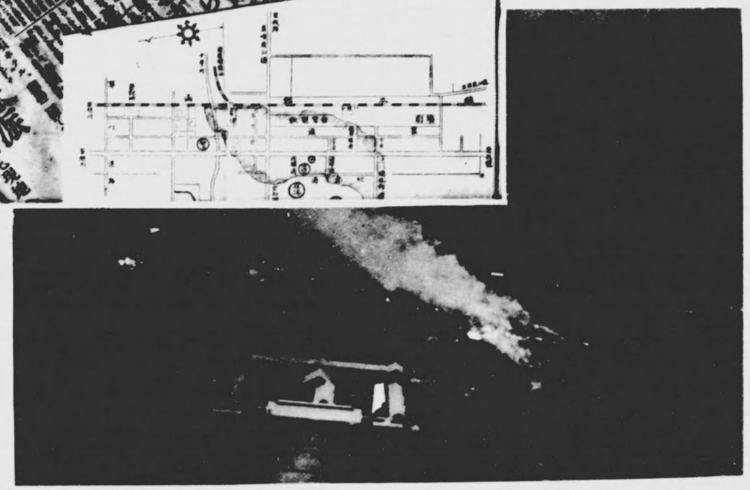
空知支廳長　永山政能殿題字

奮起更生

美唄町長
本庄英次殿題字

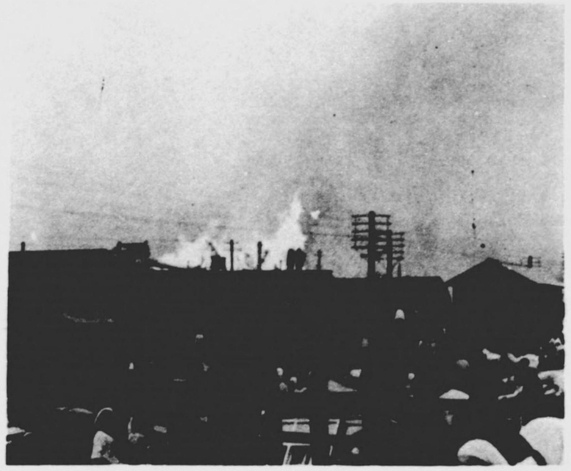
昭和十二年五月一日は烈風の日であつた。
突如！無氣味なサイレンのうなりが惡魔の
嘲笑の樣に人々の耳朶をうつた——。
すは、と出ずる巷に榮通りの一角から起つ
た猛火の手は既に紅蓮の舌をなめづり乍ら
執拗に覆ひかぶさらうとしてゐた。
火の手は希望をつなぐ最後の據點、消防所
に燃え移つた。
〝もう駄目だ！〟
ガソリンの炸烈しゆく爆音が悲痛に響きつ
ゞけてくるではないか……。

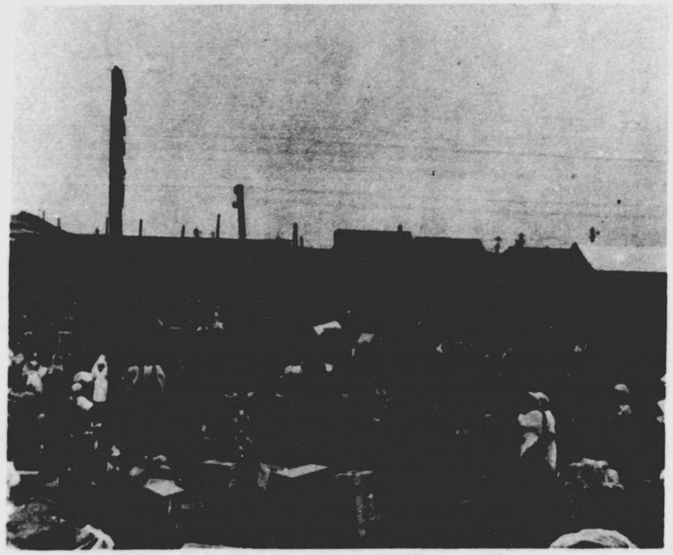
昨夕、烈風中に發火
美唄町焦土と化す
焼失戸数
今日烈風中に發火
猛火美唄全町を包む
約六百戸焼失
救護



昭和十二年五月一日は烈風の日であつた。
突如！無氣味なサイレンのうなりが悪魔の哄笑の様に人々の耳朶をうつた――。
すは、と出ずる巷に柴通りの一角から起つた猛火の手は既に紅蓮の舌をなめづり乍ら執拗に覆ひかぶさらうとしてゐた。
火の手は希望をつなぐ最後の據點、消防所に燃え移つた。
〝もう駄目だ！〟
ガソリンの炸烈しゆく爆音が悲痛に響きつゞけてくるではないか……。

廣場といふ廣場、空地と云ふ空地は剥々ひしめき寄る老幼男女で埋められて行つた。
奔命に疲れ果てた人々は
〝荷物を運んでも所詮駄目だ！〟と
絶望と諦めに天を仰いで大自然の冷酷を恨むのであつた。



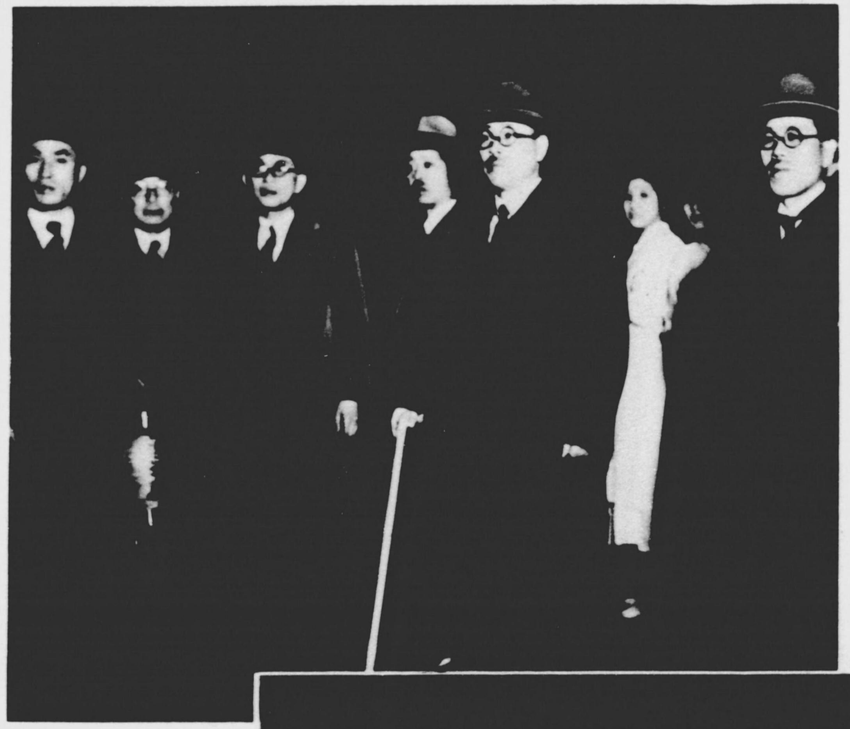


燃え續く街にもこの慘禍を知らぬげに夜の帳が訪れた。

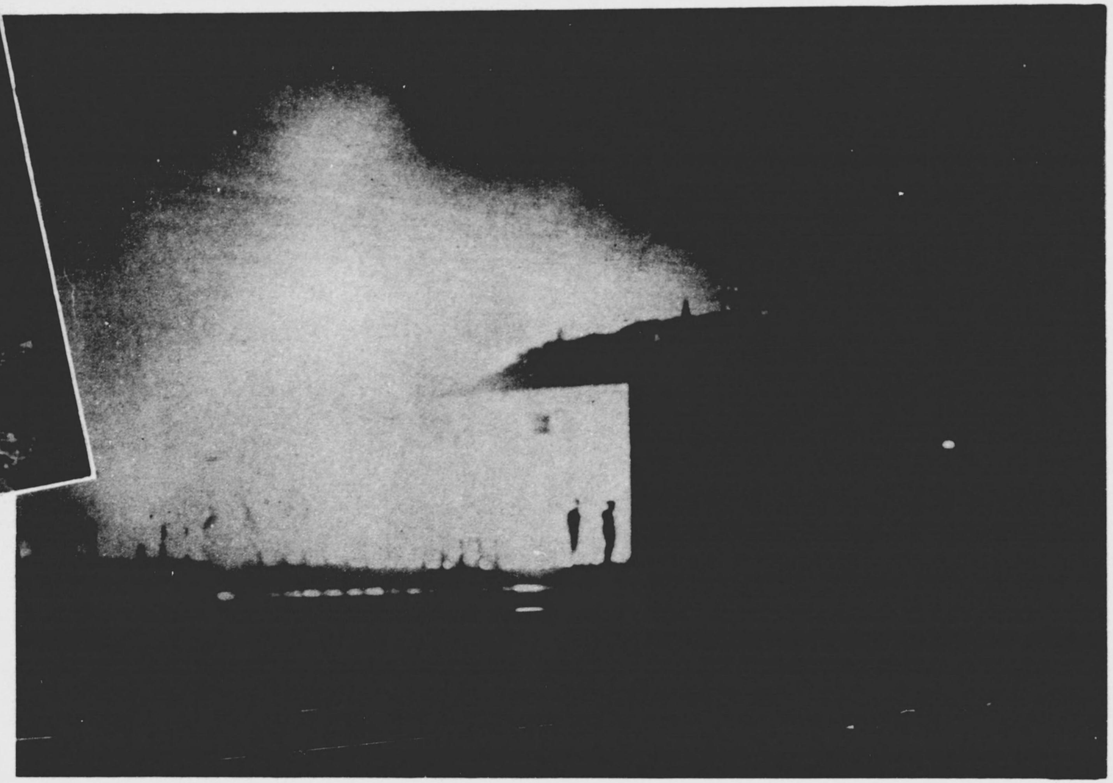
人間としての用意と努力の限りを盡した闘ひは畢竟完全なる敗北に終つた併し劫火の焰は闇の夜を尙美しくあまりにも美しく染めて燃えつゞけるのである。

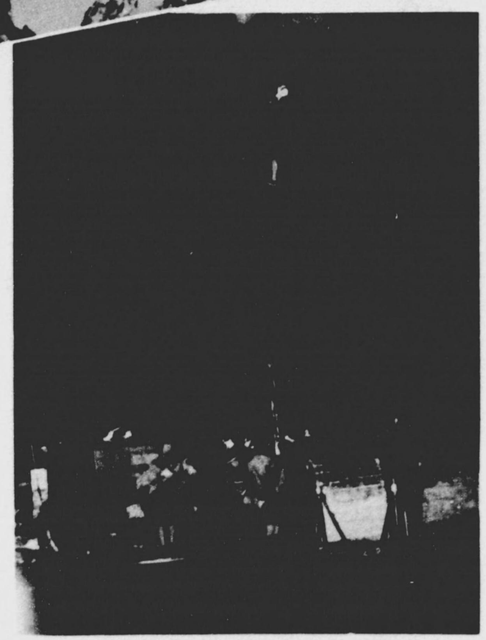
温かき援護の手は續々と町民の上に伸べられた。焰々たる夜の街は武裝いかめしく各地の救護隊消火隊員其他の團體が炊出を喫し乍ら戰きの罹災民の夢を守つて徹宵戒嚴に當つた。

烈風は夜に入つて雨をさへ加へて來た……。
飢餓は去れども寒さに震へる傷病者、乳幼兒
連を救はねばならぬ、と殘火を衝いて各方面
の救療隊は來援した。

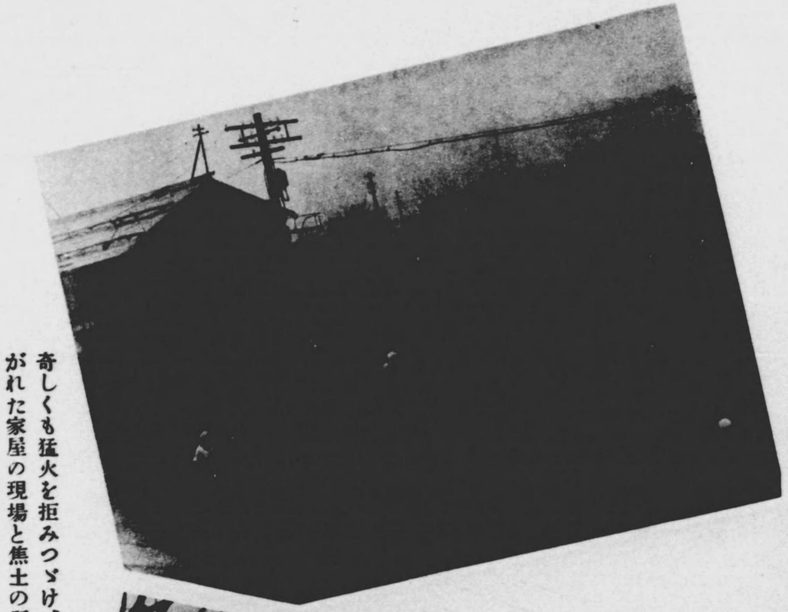


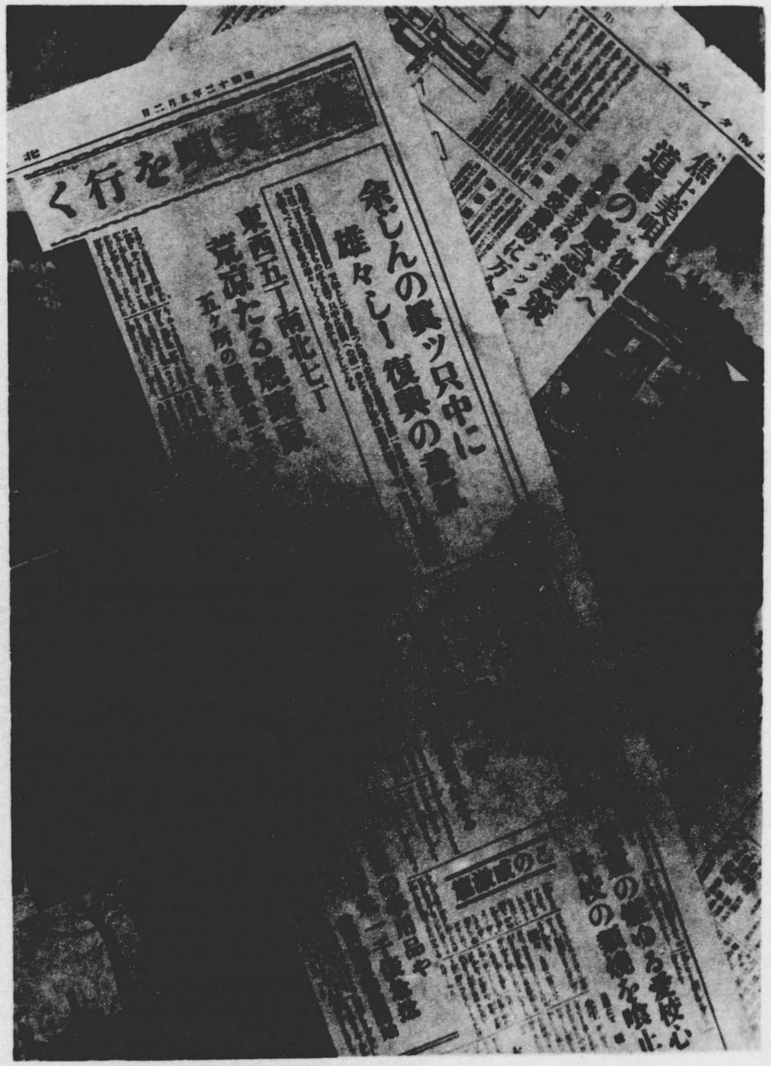
悲報一度飛ぶや焦土の街は
池田道廳長官を始め、見舞
の高官名士に埋められた。





餘燼は猶去らず——
炎々と天空を焦して崩れゆく倉庫……。
沈默の底に横たはる建物の殘骸、繁華の美唄は一瞬にして不安充滿した嘆きの街となり終つた。
せめてこの街に明るい灯を！そして罹災民に新しい光明と慰めを與へなければ、と挺身作業に突進する日本電力の工作班。



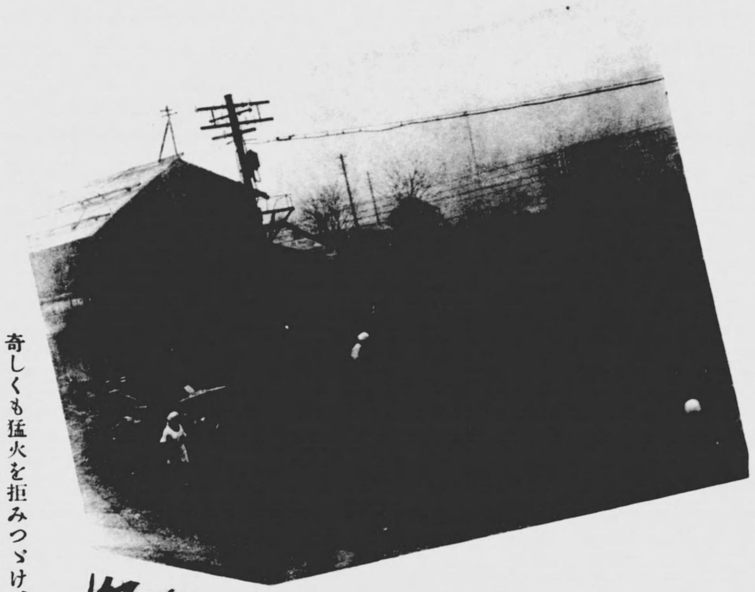


奇しくも猛火を拒みつゞけ、遂に類焼をまぬがれた家屋の現場と焦土の所見——たゞ感慨無量のものがある。

×

眠られぬ一夜は明けた。

人々は喪神した者の如くに我家の面影を求めて街を彷徨する。鼻を衝く白煙の中を……。



奇しくも猛火を拒みつゞけ、遂に類焼をまぬがれた家屋の現場と焦土の所見――たゞ感慨無量のものがある。

眠られぬ一夜は明けた。
人々は喪神した者の如くに我家の面影を求めて街を彷徨する。鼻を衝く白煙の中を……。

焦土美唄を行く

余じんの眞ッ只中に雄々しい復興の意氣

東西五丁南北七丁 荒涼たる燒野原

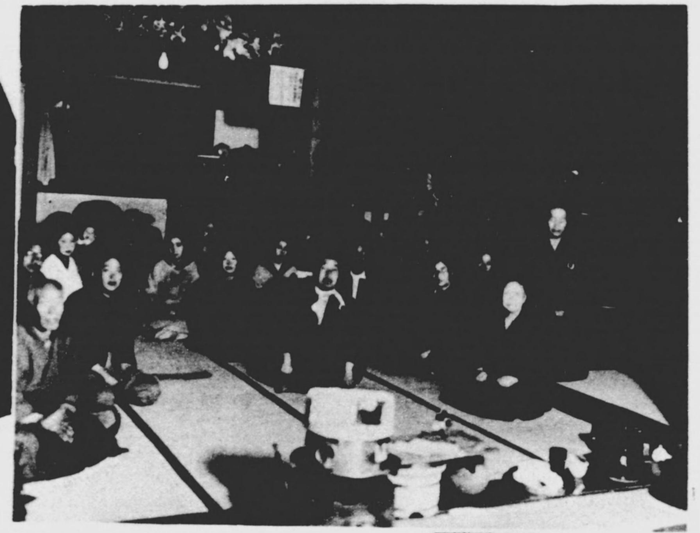
五ヶ所の避難者五百人

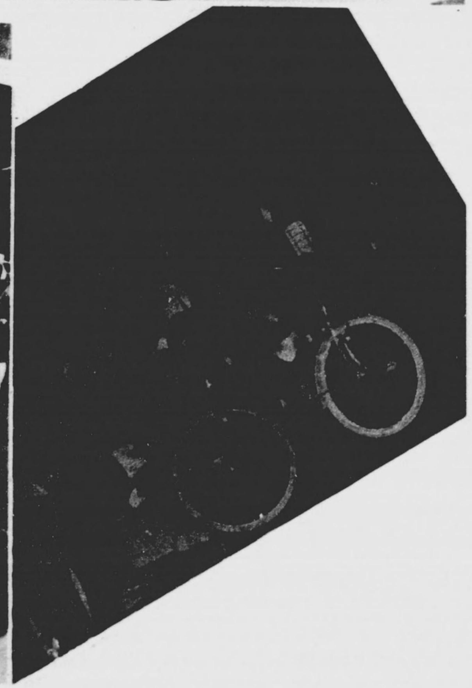
五月雨に明けて 復興の第一歩

兒童の慰ゆる愛校心 母校の類燒を喰止

兒童の學用品や 政府米一千俵急送

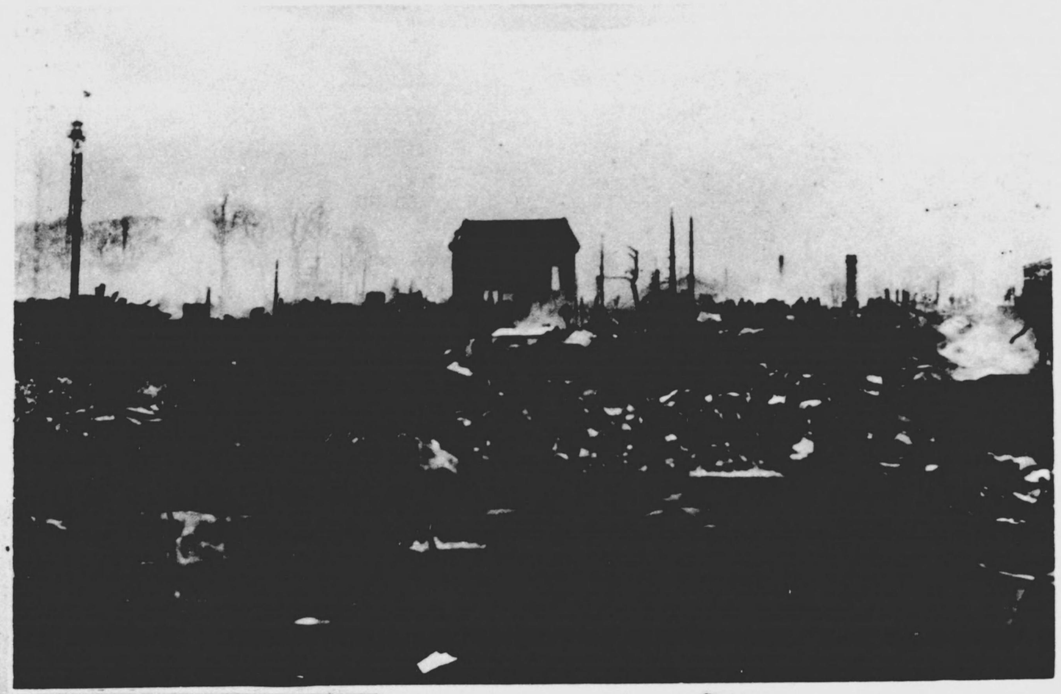
焦土美唄 道路の應急復興へ





避難所へ！避難所へ！
救護本部員の必死の叫聲に導びかれて來たが避難所には肉親の、知人の安否を氣遣ふ人々の深刻な表情で滿ち滿ちてゐた。

こゝが我家の焼跡である……
あの懐かしき土は灼熱にたゞ
れきつて握ればはら〳〵と白
き灰となりてこぼれた。
零れゆくもの、それは灰ばか
りではない。
見よ　こはばりきつた表情の
奥を、瞼をふるはせて流れ出
づる泪を……
そして静かに胸底を叩く追憶
の數々を。



何物も殘さじ、と燒きつくした
劫火の中に鄕土の鎭守縣社空知
神社の神柱に結んだ注連だけが
不思議にも燒け殘つたのである
人々の心には力强い炬火が點ぜ
られた。　見得ざるものを見た
人々の面は信念に輝いて廢墟の
整理に奮ひ起つことを誓つた。

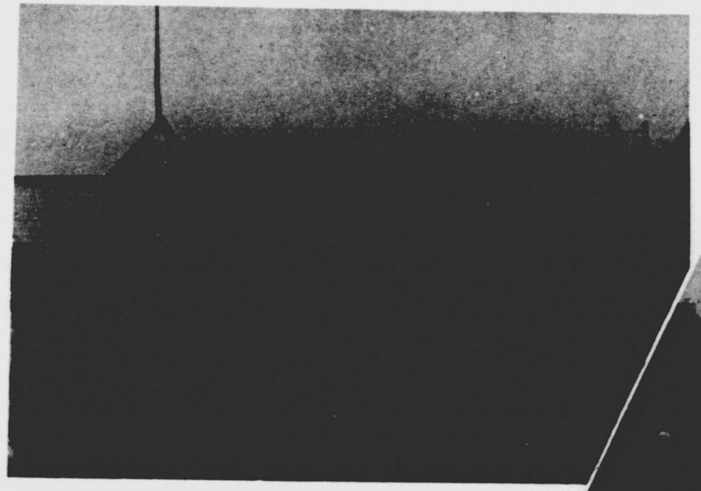
自らの選びし蘇荊の道にはあらね、天に依つて課せられし受難苦闘の幾日に、身も心も疲れた人々を勞はり力づける救護班の活躍。

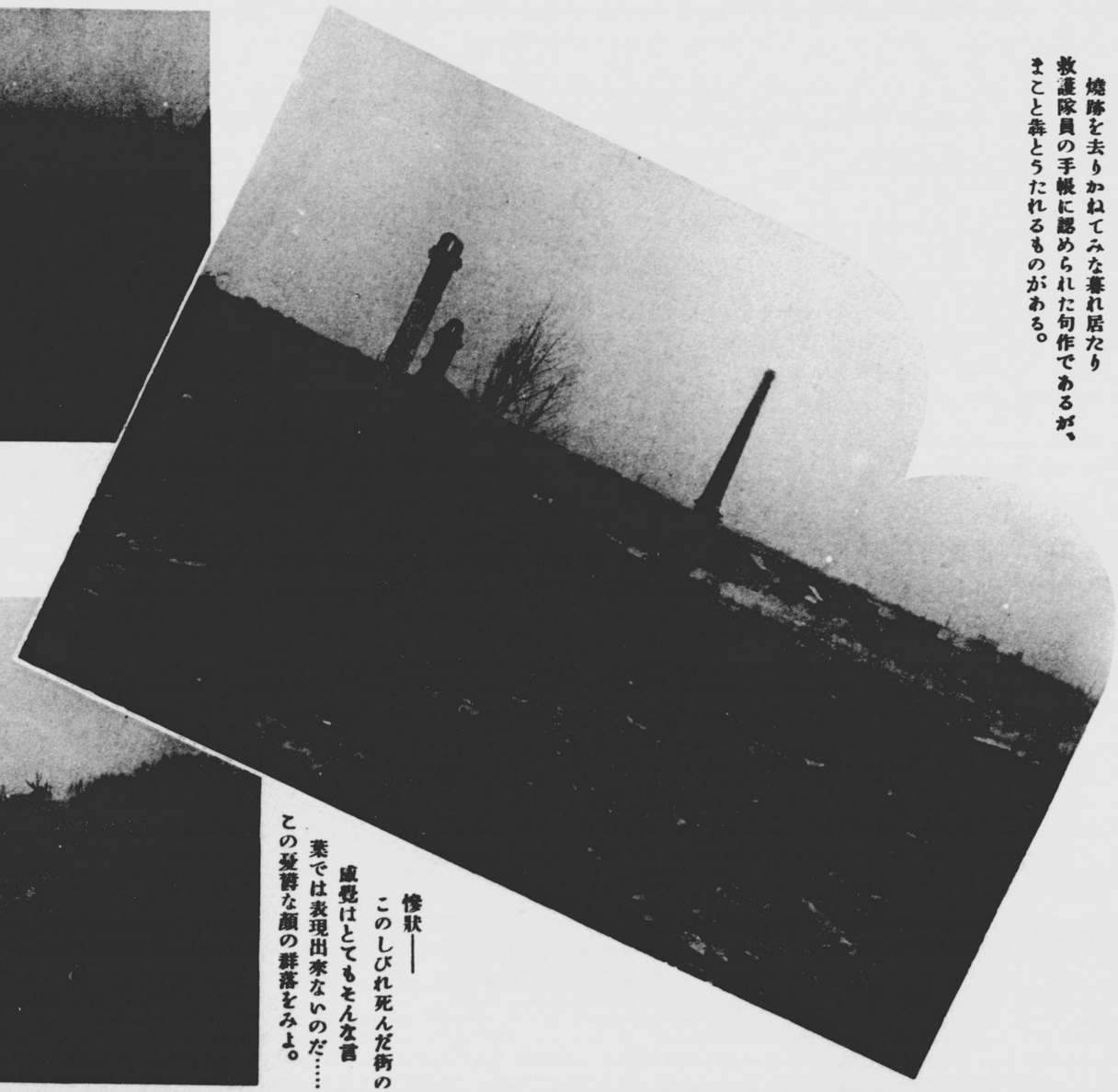
大自然の悠久は地上の悲劇に何等の關心もないのであらう。めぐる季節である——靜かに、無心に綻びそめた櫻は又新たなる悲しみを唆る。

調劑室に奉仕する少女達

罹災民の柱と頼む救護本部は
避難民收容に、食糧の配給に
治安維持に寢食を忘れての幾
日……

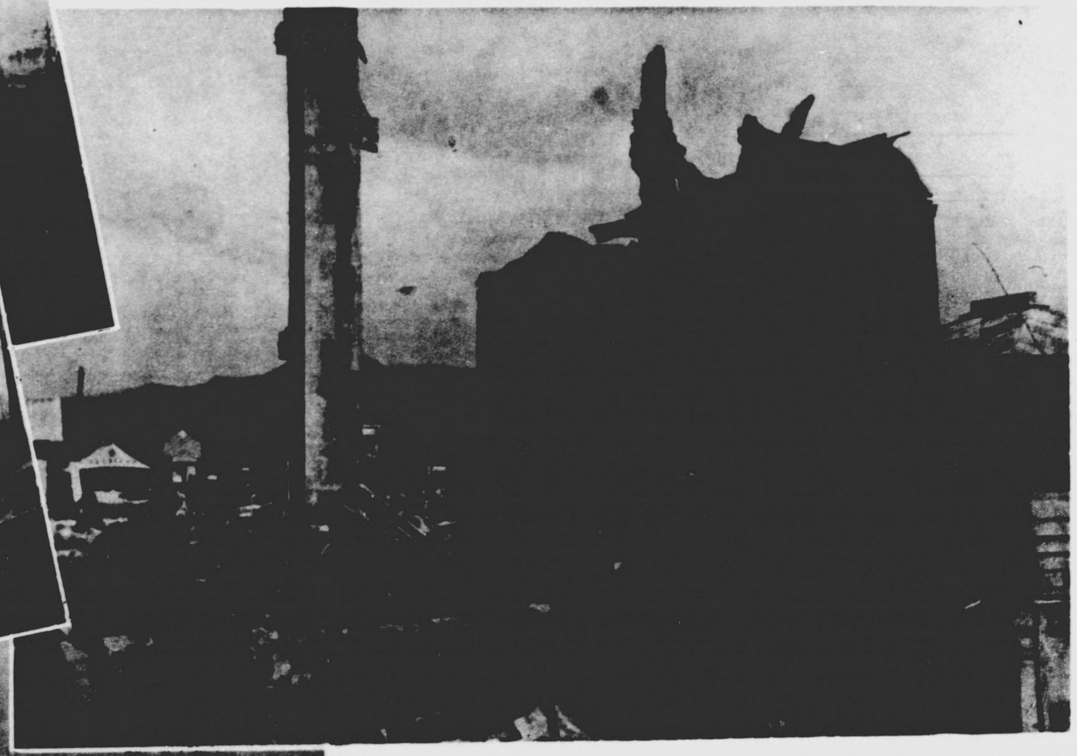
本部員の顔にも苦惱の色は蔽
ふべくもない。
顧みずに去り來し家を懷ひて
か？
あらず
それは唯運命を町民と共にせ
む憂愁の心情なのである！





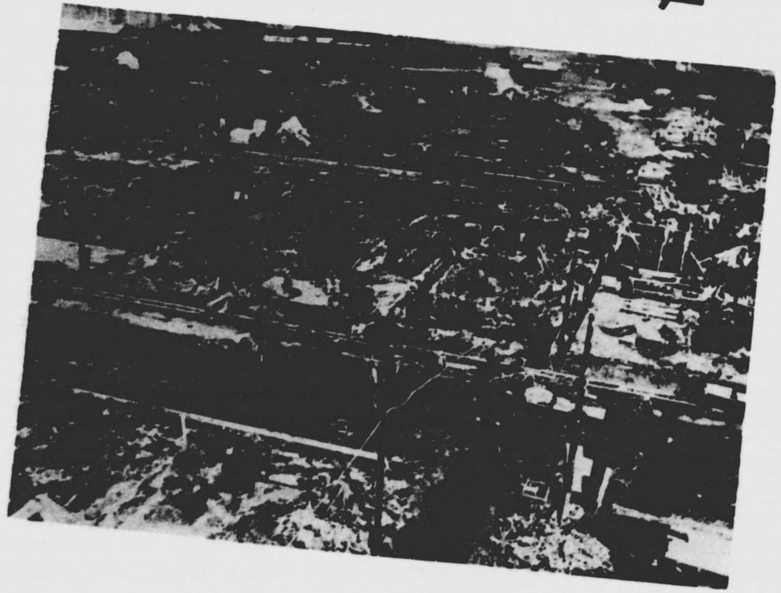
焼跡を去りかねてみな暮れ居たり
救護隊員の手帳に認められた句作であるが、
まことと森とうたれるものがある。

惨狀——
このしびれ死んだ街の
感覺はとてもそんな言
葉では表現出來ないのだ……
この凄慘な顔の群落をみよ。



〃崩れたる姿〃
も次第に拂拭されていつた。
今や新しい溢れる力が胎動し
やうとしてゐる。
空にもやうやく明色な日射し
の訪れが兆して來た。

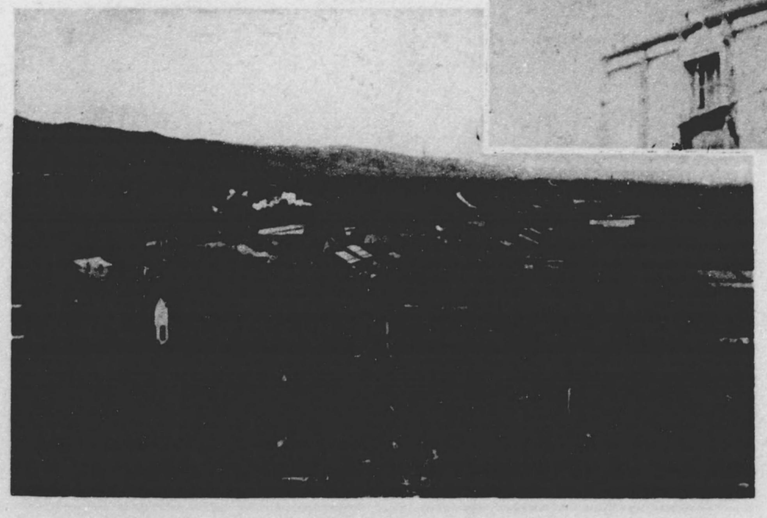
姿くゆり移



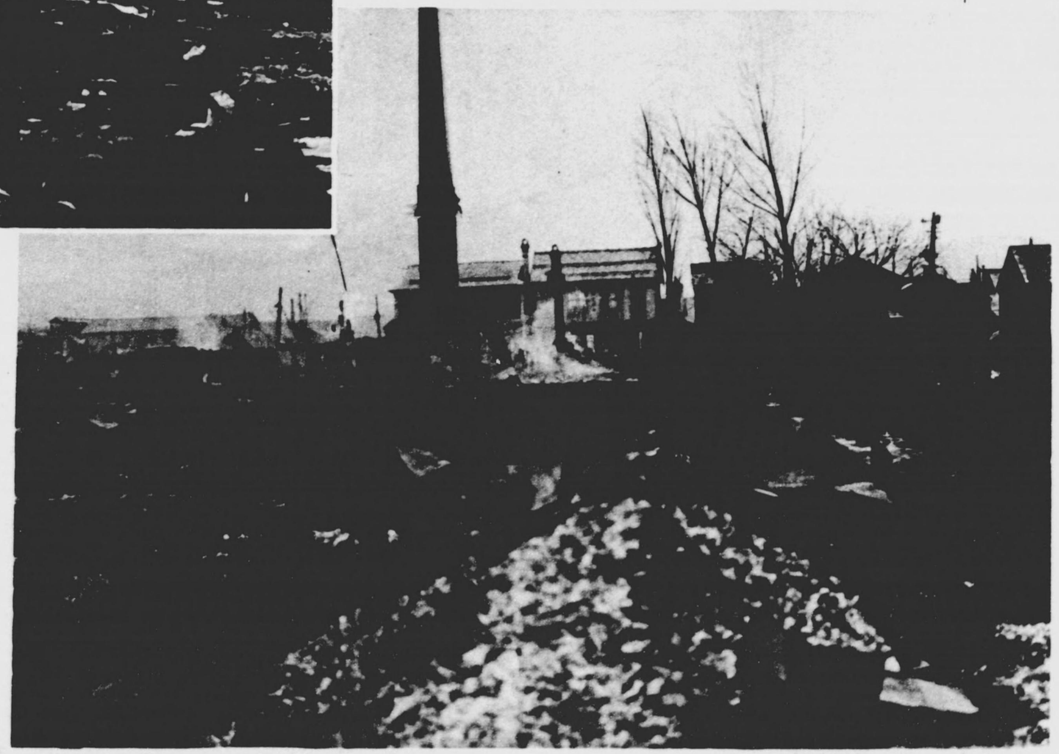
過去への執着をふりすてよ

そして新しき工作の段階へ！

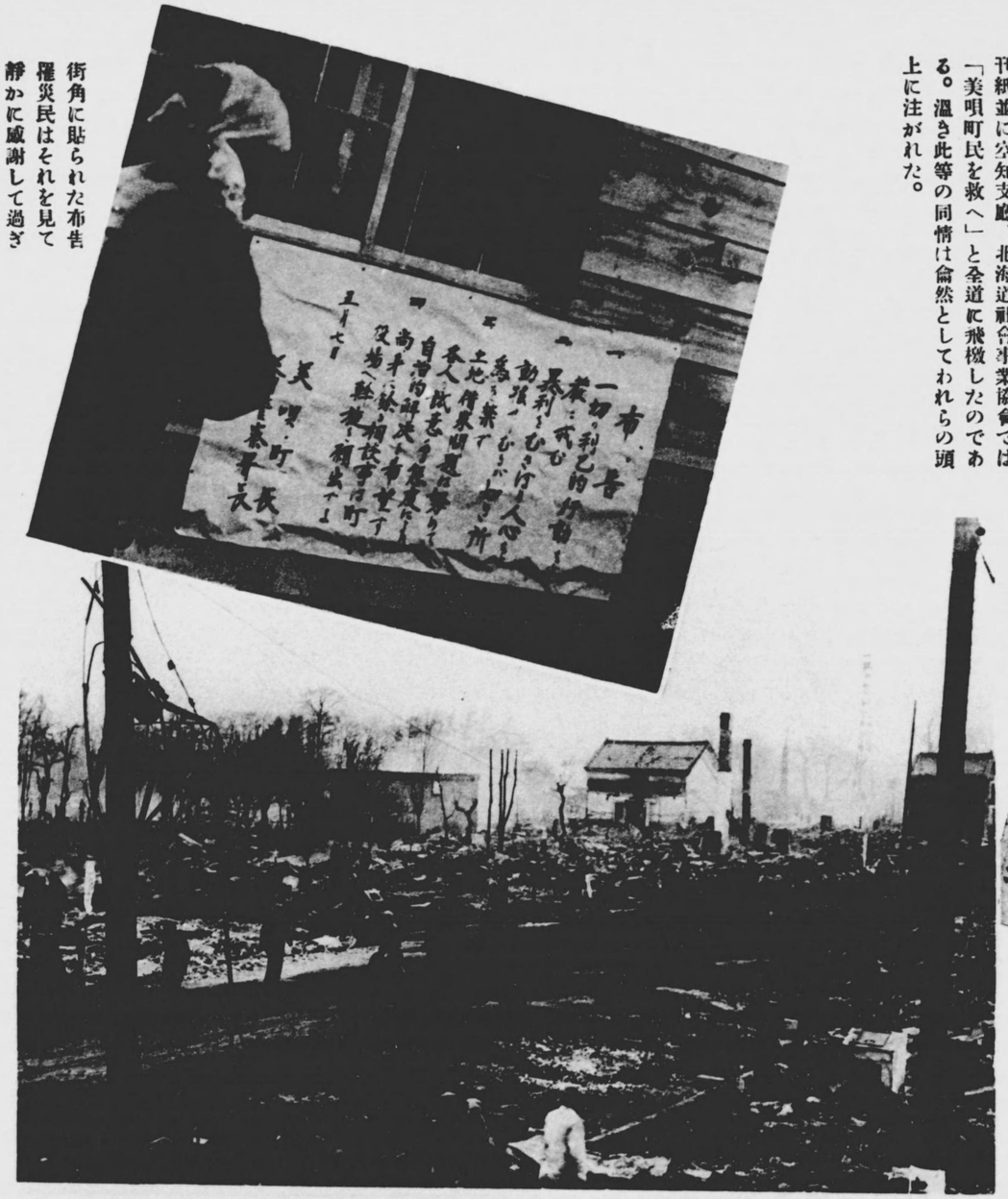
工作資材はどん〻運ばれ、明朗譜を描き、斯くして再建設は着々とその心臓に鼓動を加へてゆく——。



工作資材はどんゝ運ばれ、明朗譜を描き、斯くして再建設は着々とその心臓に鼓動を加へてゆく——。



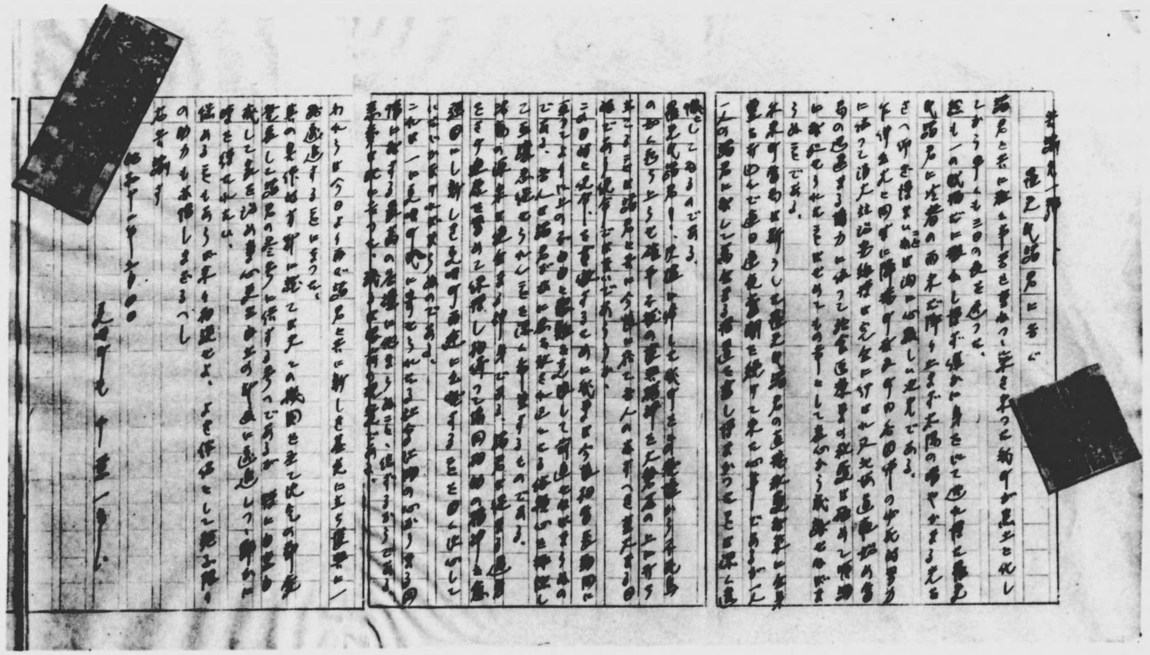
〝立退先×××方〟の立札も
假事務所　△△△方――營業
所○○○へと移る復興氣分は
次第に濃厚なものを見せて總
て街全體を壓して來るのだ！



街角に貼られた布告
罹災民はそれを見て
静かに感謝して過ぎて行く——。

北海タイムス、小樽新聞を始め道内各有力日刊紙並に空知支廳、北海道社會事業協會では「美唄町民を救へ」と全道に飛檄したのである。溫き此等の同情は翕然としてわれらの頭上に注がれた。

社會の同情を拜謝す　と
新聞紙上に掲げた町民感謝
の第一聲こそわれらの心底
なる信念の奔りであつた。
× × ×
五月四日告諭が美唄町長に
依つて發せられた。
「罹災民諸君に告ぐ」と
言々肺腑を衝く力強いもの
を二千の罹災者は仰いだの
である。

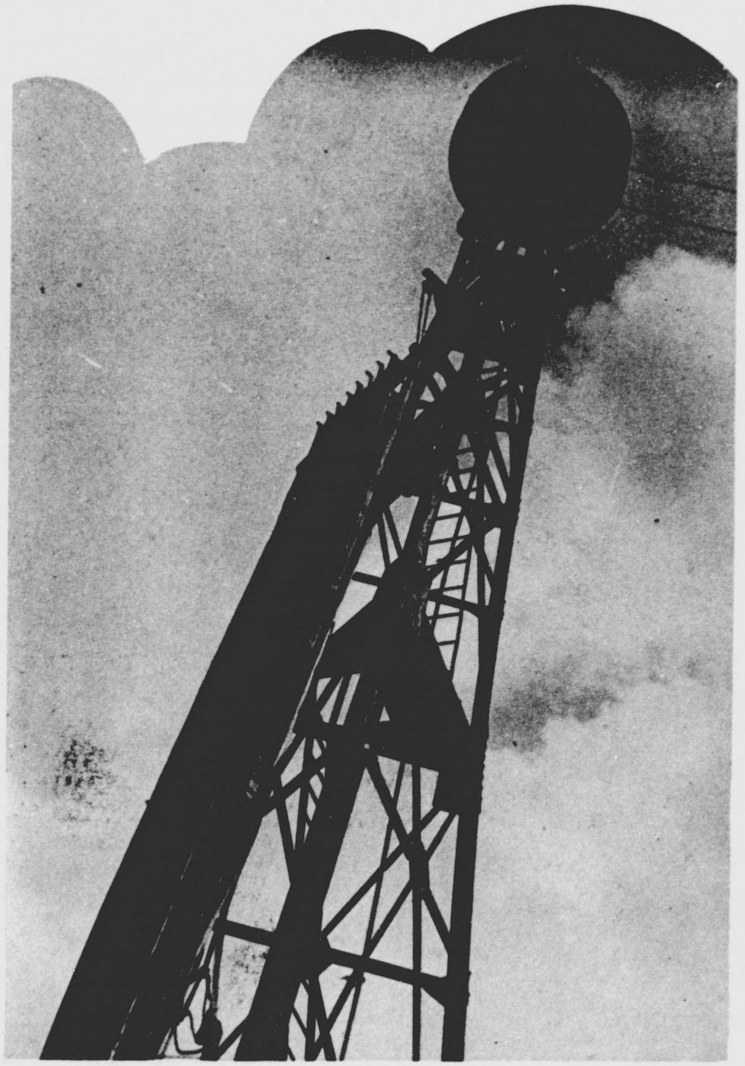


罹災民諸君に告ぐ

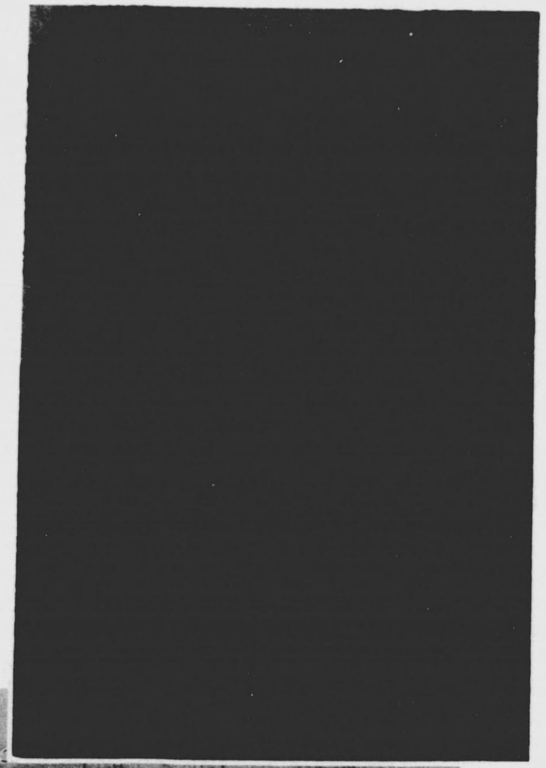
五月四日

美唄町長

救護對策から復興計畫の樹立へ雄々しく更始
一新の態勢は築かれていつた。

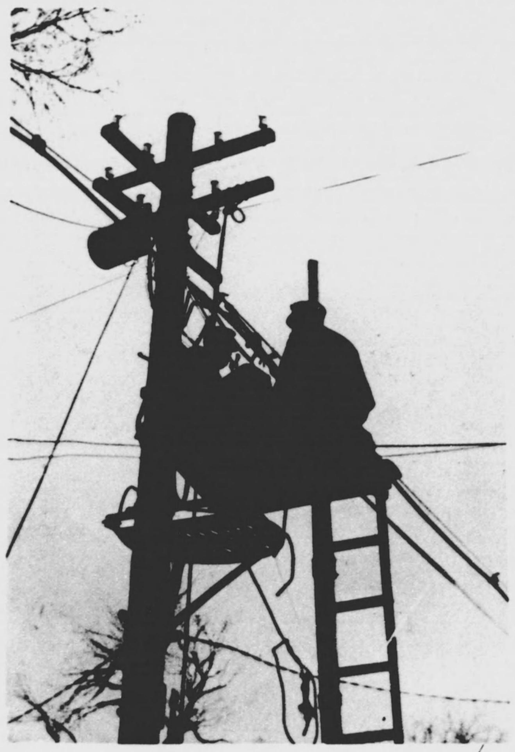


白雲は行けり
されど
消防所の大望樓は空しく



朝風に飜へる逓信旗――假局舍を開設致しました。
故郷に無事だといふお便りを……。

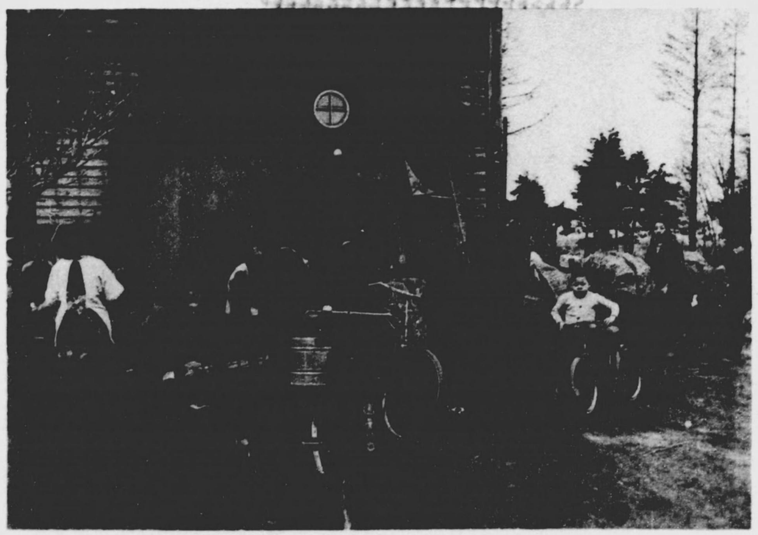
電線から甦る街



"まぶしいぞ！"
男の腕に躍る復興だ！
みなぎる快足調

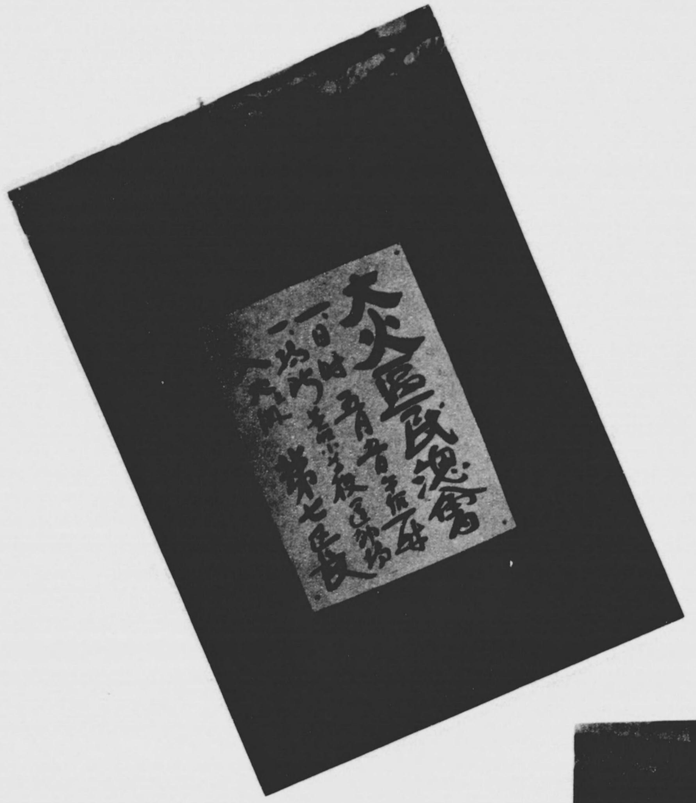
青空をくぎつて走る電線
その下には幾つかの天幕の
整備兵が並んでゐる。

事態が落着して來るに隨つて
診療所の受附を訪ふ患者と乳
幼兒の數が增加して來た。
ほつとした喜びが今迄潛んで
ゐた深い疲勞を呼び起したの
であらふか——。



燃料もない、湯を沸すにも
焚飯の釜もない——
名ばかりの
住家は得たれども
人々に與へらるゝ
日々の糧は社會の同情に
よつて集められたのである。

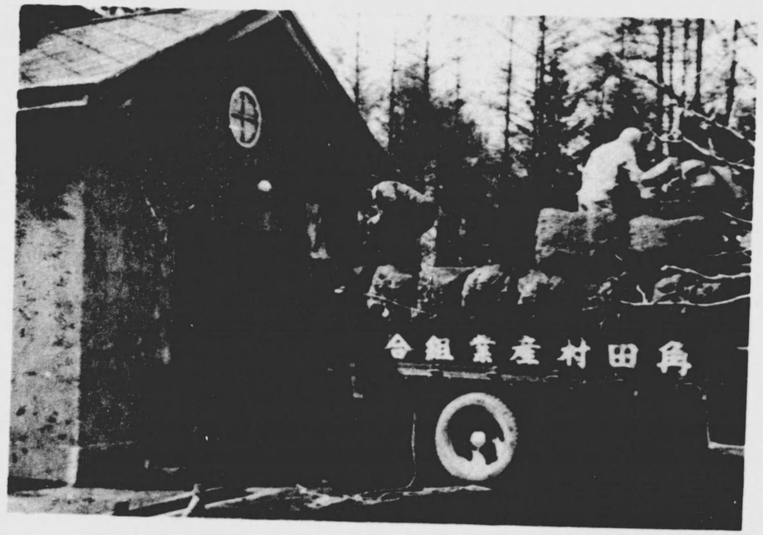
興奮と熱血渦巻く〝大火區民總會五月五日午後一時〟と招集の檄は貼られ、サイドカーからメガホンの聲は街頭に溢れた。



感涙交々下る熱願
正しく然して強く
大美唄町への進發に希望を織りこめて、輝かしい復興會の結成は成つたのである。

道具屋の店頭に集まつた古鐵材

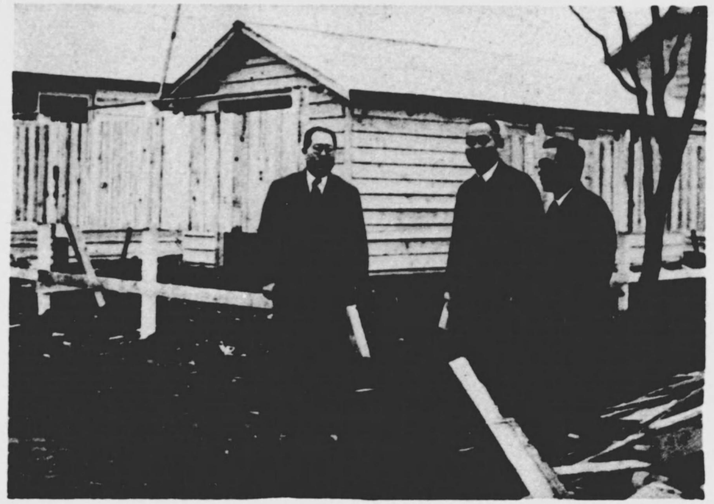
散り散りとなつた生徒を呼び集める親鳩のやうに、やさしいビラを電柱にとめる教師の姿も微笑ましい風景である。



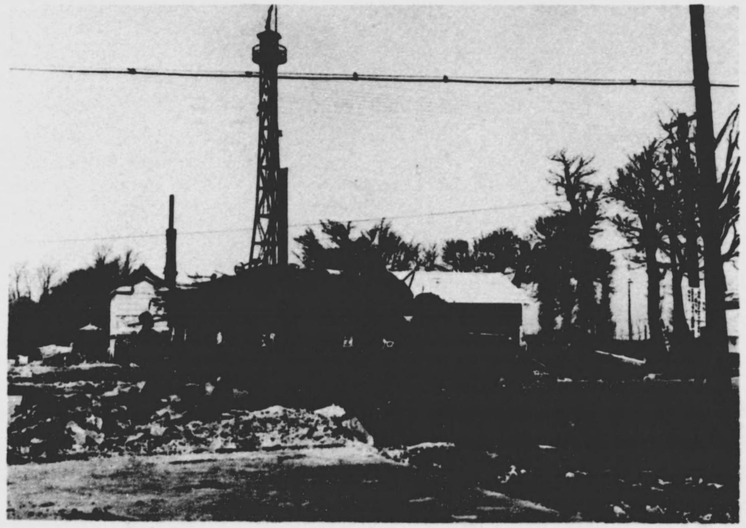
木炭を配給するトラック

築きゆく鋭角

「ひどかつたなア！
この跡にかうして建つてゆくのか」
と、急ピッチな復興作業の進展ぶりに
今更驚歎の聲を發する議員視察團一行



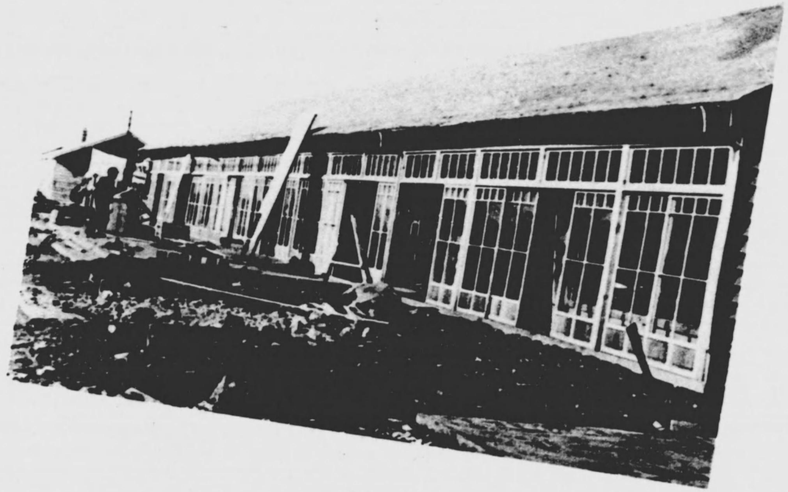
北海道廳の手で建設された共同避難民收容所を視察中の永山支廳長。



假營業開始　北門銀行

機材は復興の血だ、骨だ不可缺の重要素だ！

復興点描



A

〝開業開店〟自分達の街で物を購ひ得る喜び——

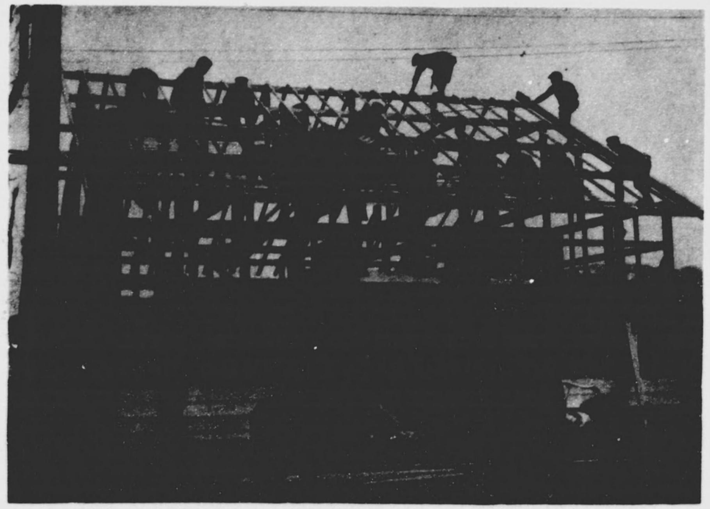
これこそ何人にも味はふことの出來ぬ童心的な歡喜である。

B

小鳥の歸る日も近いだらう
光りも今日は明るい
投影を屋根になげかけてゐる
ペンキはなだらかに線を描き
文字を躍らせるのだ

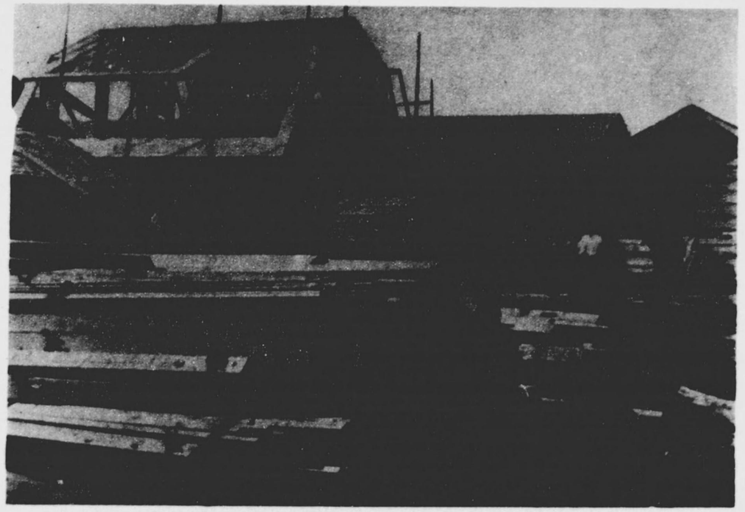
C

「いゝか旗を振るぜ」
かうして新らしき大路の基點も定まつてゆく



D

「大きな柱だ！ホラヨイサヨイサ」
と捻り鉢巻は街の即興詩を讃嘆と生んでゆく

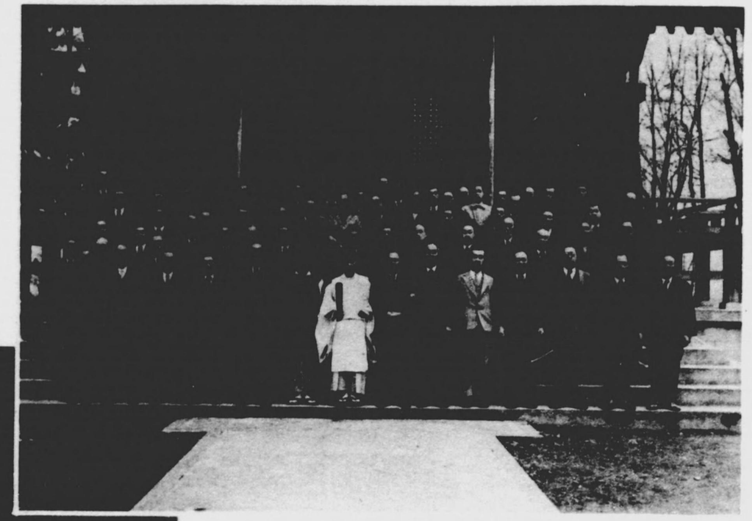


官民相集ふ復興新嘗祭はいとも
嚴肅に執り行はれた。

×

天地の神々に新らまし
行手の幸を加護し給へや

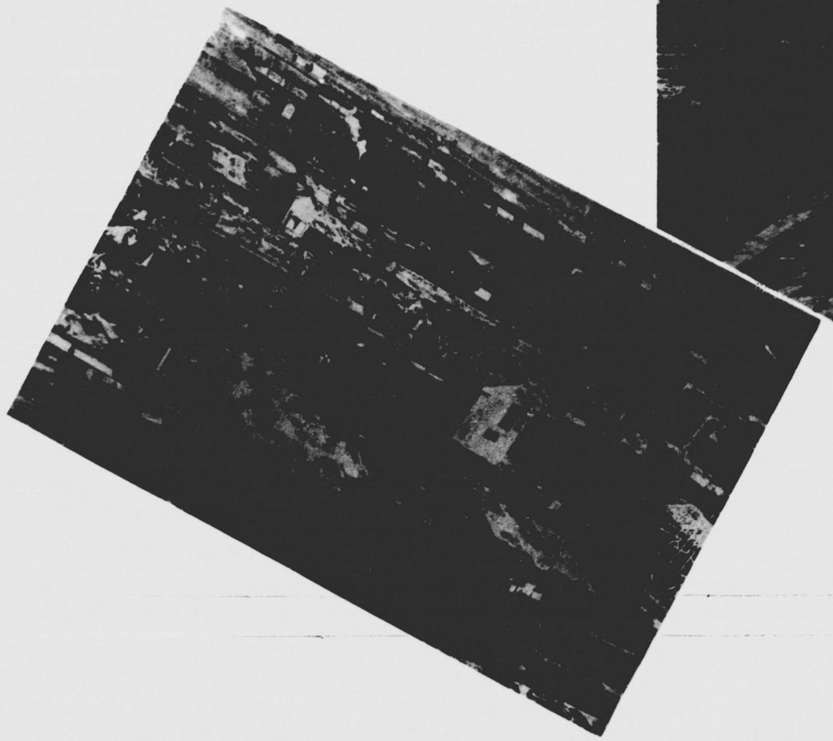
罹災兒童の體位を保護して
學校給食に從事する女子青
年團諸姉。



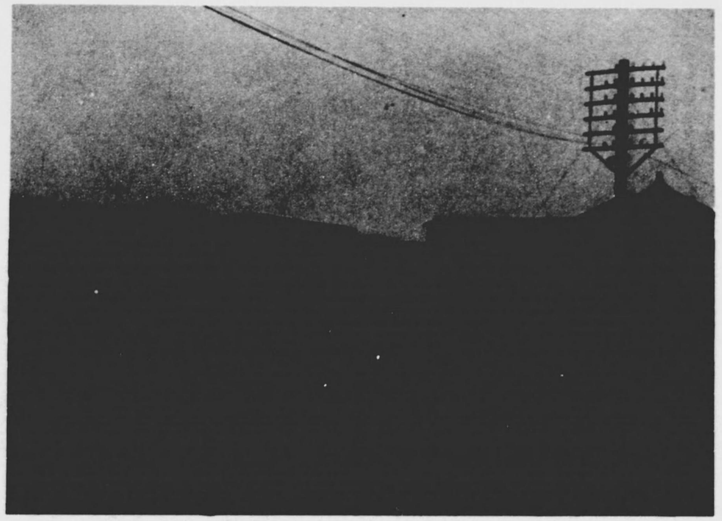
真心をこめた慰問の品々は衣類となり、日用品となつて配給班の手で渡される。

寥愁をそゝる破壊の跡に新らしい貼紙は日々にふえてゆく――　それは何の掲示であらう――

種播く日の麥畑を思はせる
街の大道に清新な母胎の基
地は用意された。
區劃測量の後（新しき杭は
打たれた。——復興軍の
小さな散兵線の展開である
〝進軍はよいか〟
——（復興途上の一所見）——

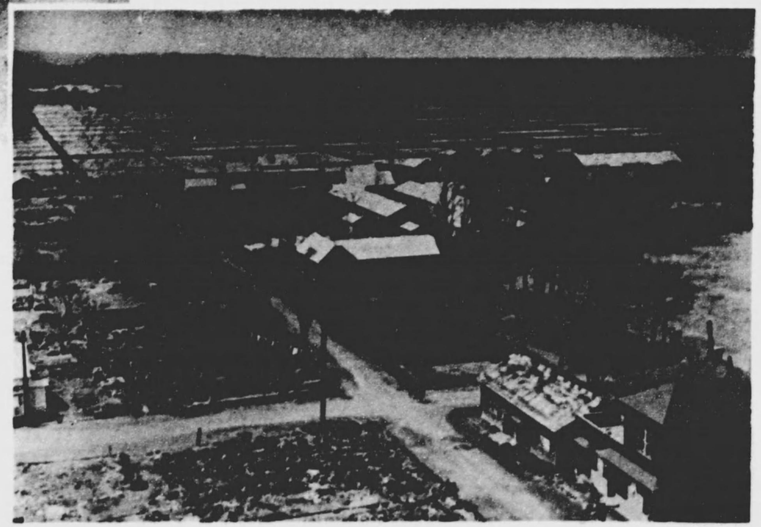


種播く日の麥畑を思はせる
街の大道に清新な母胎の基
地は用意された。
區劃測量の後（新しき杭は
打たれた。　――復興軍の
小さな散兵線の展開である
〝進軍はよいか〟
――（復興途上の一所見）――



躍進は堂々たる縦列を作つて
逞しい組織體に向つて突進して行く

すくすくと若竹の素直さを以て
大平野の中に擡がり行く力の構成美



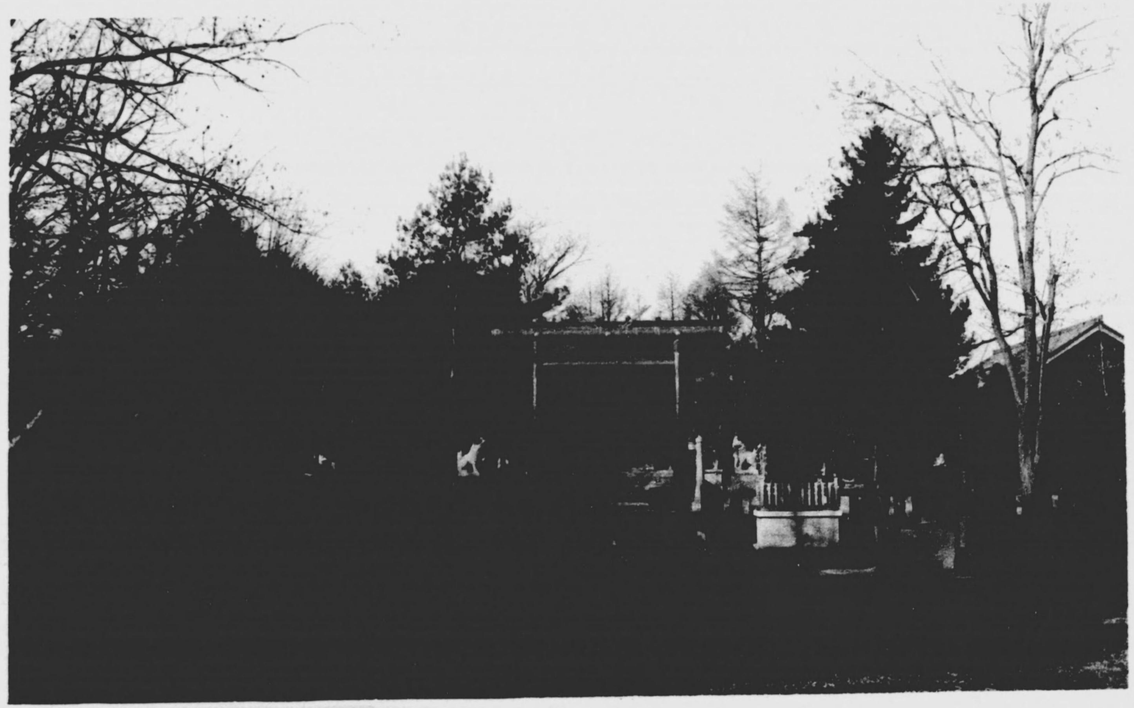
するすると男性的な素材は
しなやかな羅を一皮一皮と
ぬぎすてゝ美しい肌を現す

×

仕事小舍から洩れて來る
彈んだ旋律の歌に唱和し
て……。

てね訪を出び思ろへ甦

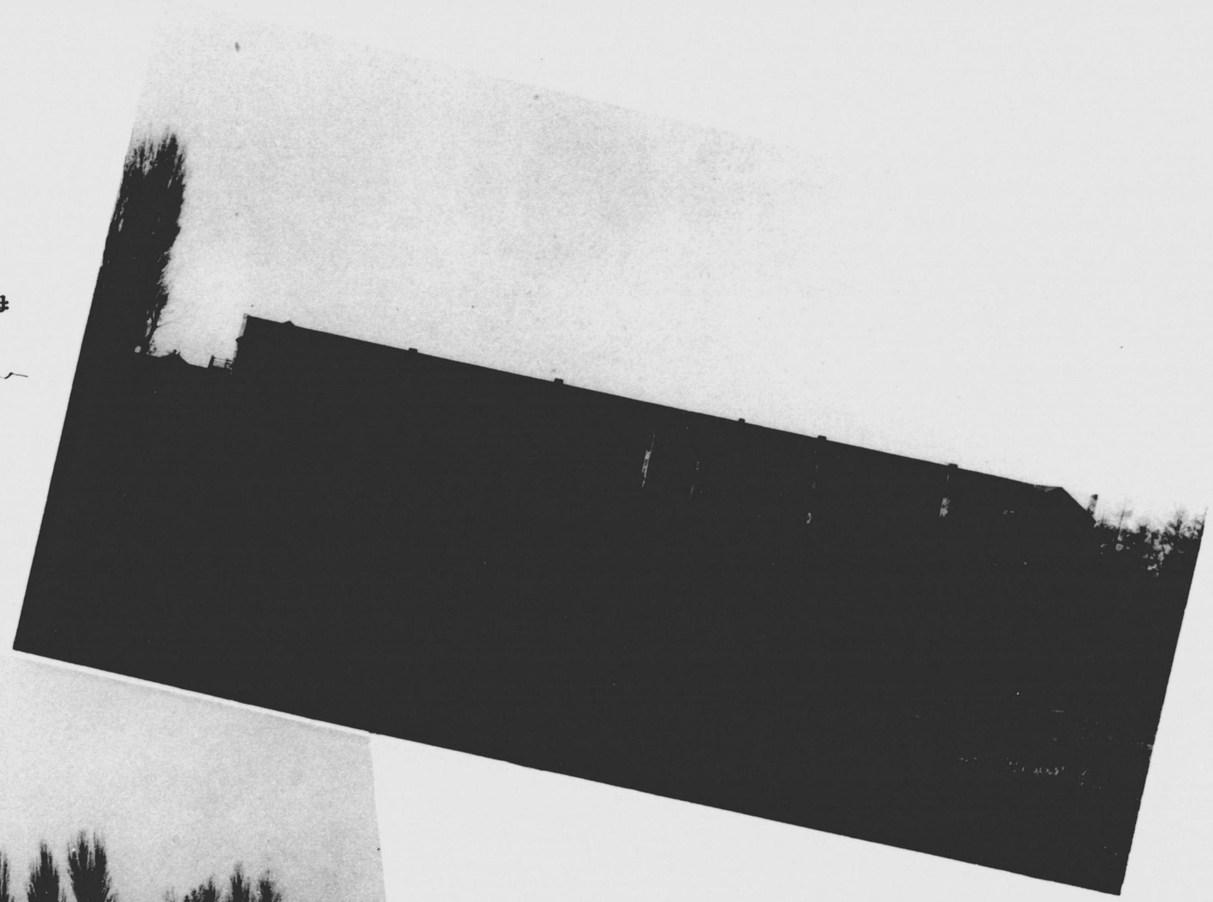
1



場役町唄美部本の興復護救と社神知空社縣

たれ免を禍災に手の童兒の愛性母

校學年青唄美立町と校學小等高常尋唄美



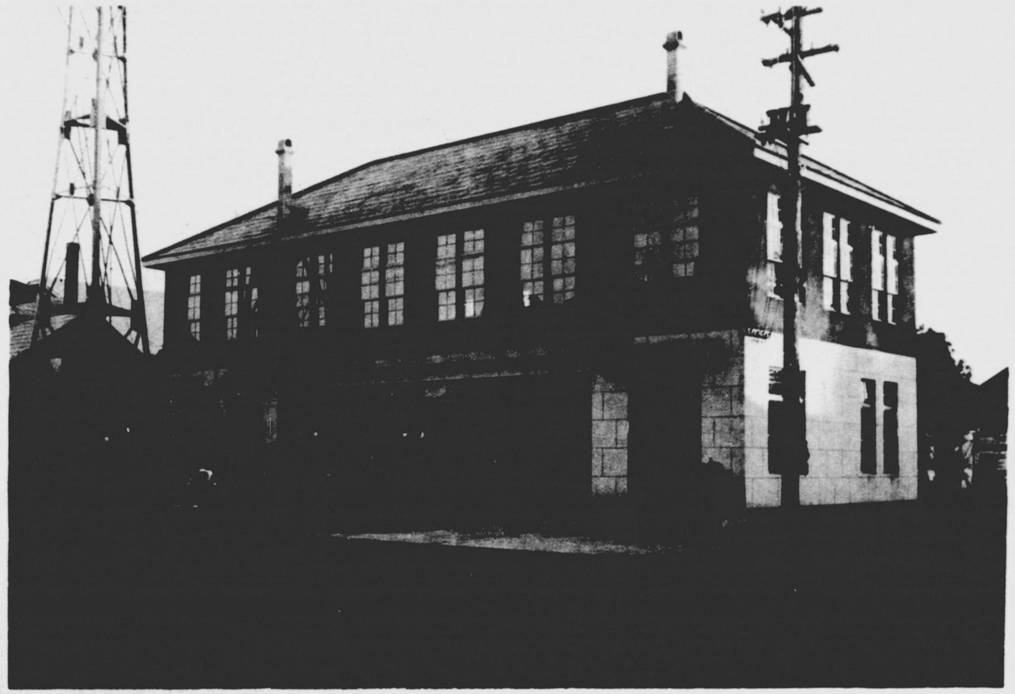
て故郷を出て思るへ難

3　てね訪を出ひ思ろへ更生

を脈動大ぐなつを源資の商鑛農
內構と驛唄美衝要の通交るす握掌

る成に遂は粧明

1



と部本組防消唄美の日るれ成装新

——街ルビ前驛

道歩に裝舗トーリクンコ的代近たし成完
、は溝水下れらせ劃區と然判はと道車と
るてし流放を量水る散玉とう●さ●う●さ
貌相大の帶襟河山、よ見き開を眼活。る
。町唄美がわく行け展に

2　る成に遂は粧明

3 成に遂は粧明

3

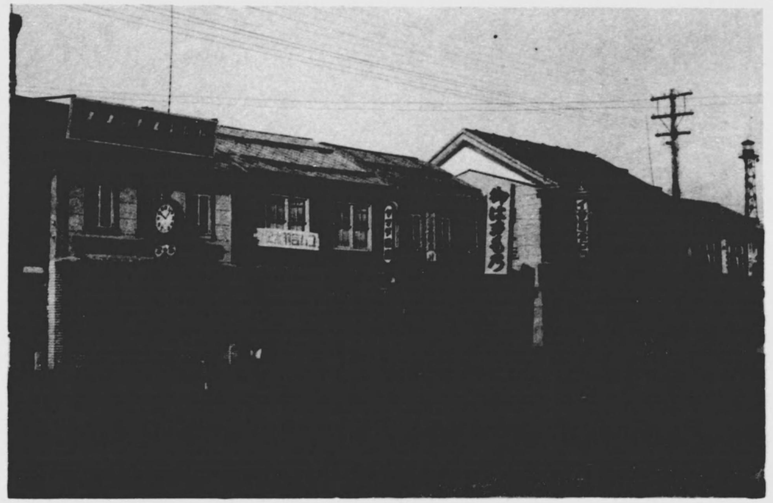
ふは拾を影面の街るもこのさし親
——よ氣圍雰く行てし化代近
はでたつ成に既は粧明の街いる明
。かいな
の躍飛いし新てしと市都代近はに次
使命が待機してゐるのだ。

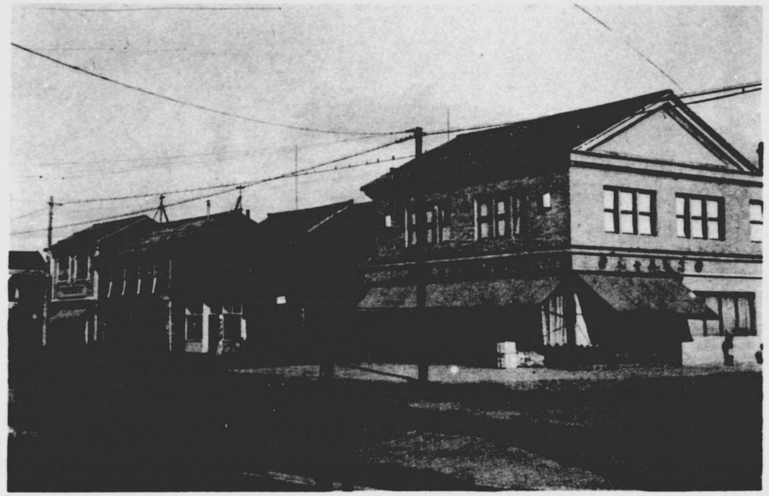
躍進の生産を働く輝く

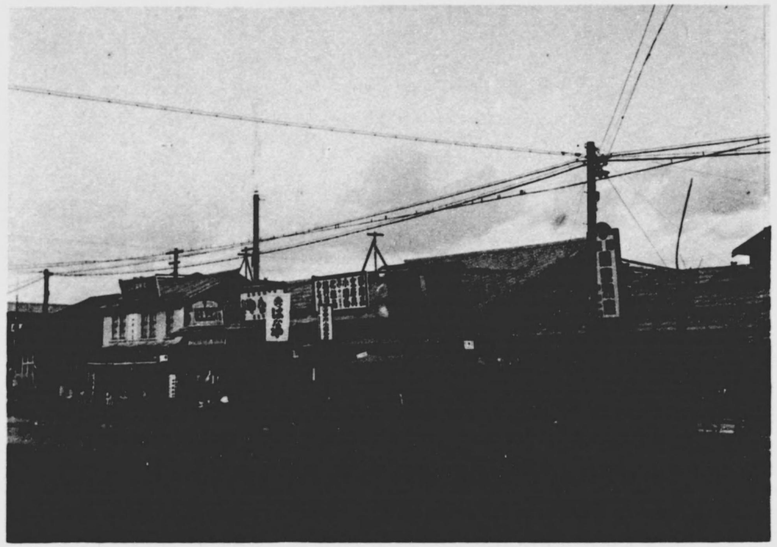
一のそ

近附通場車停

この街の輝く生態



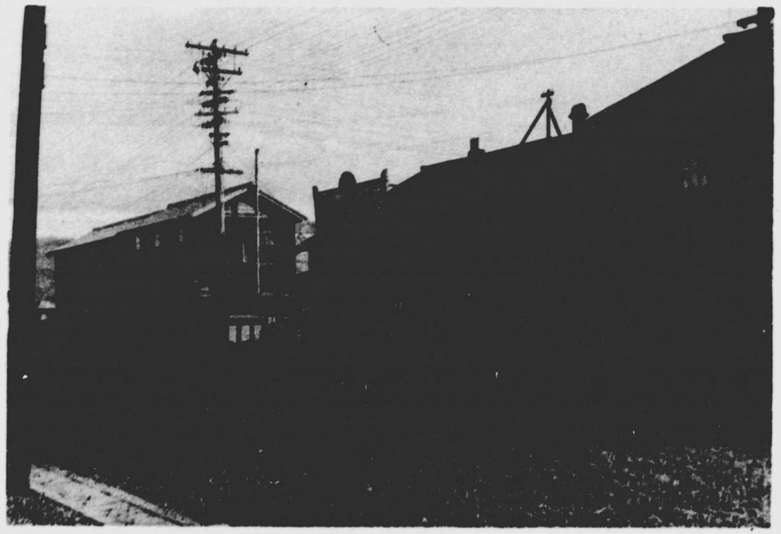




三のそ々街く輝に生甦

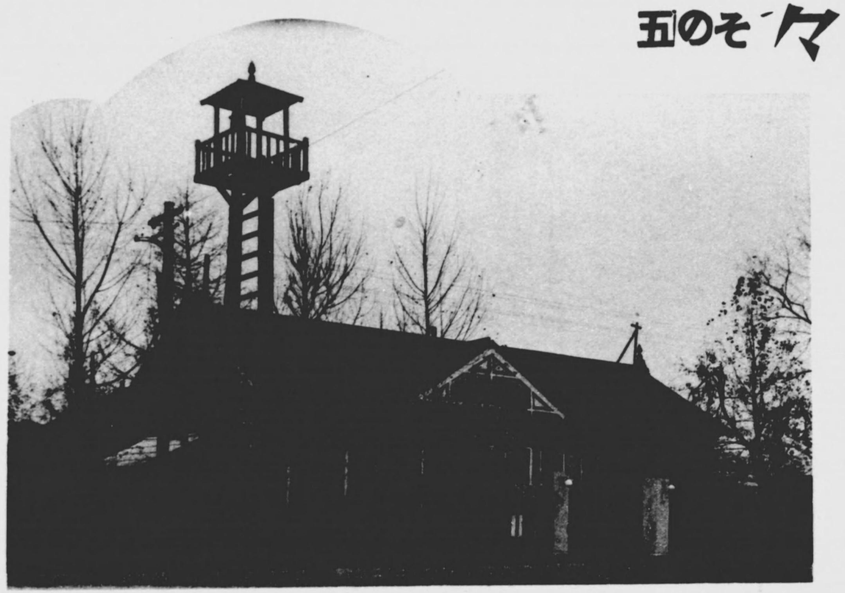
B り通央中

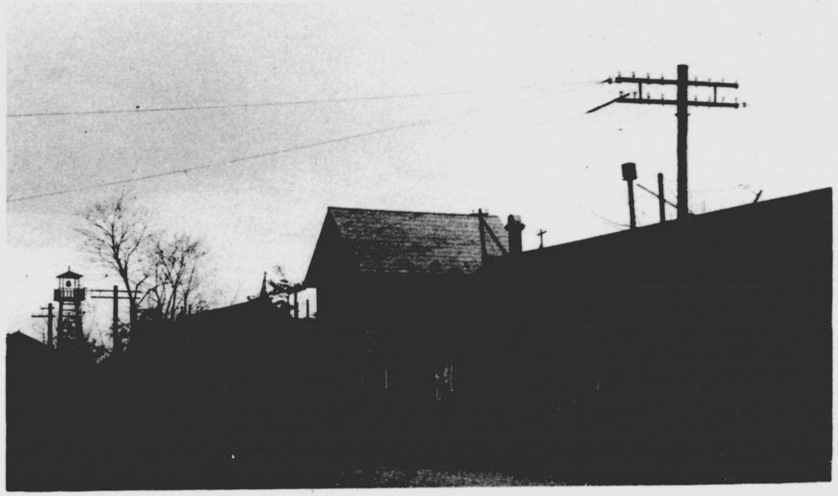
越生に輝く街 その四



中央通りと旭通りの一部

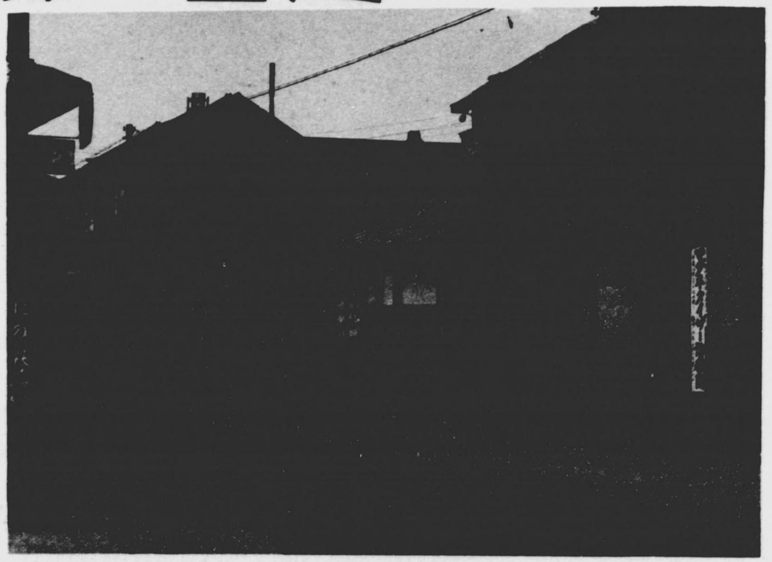
五のそ々街く輝に生甦





近附署察警

二十のそ々街く輝に生甦



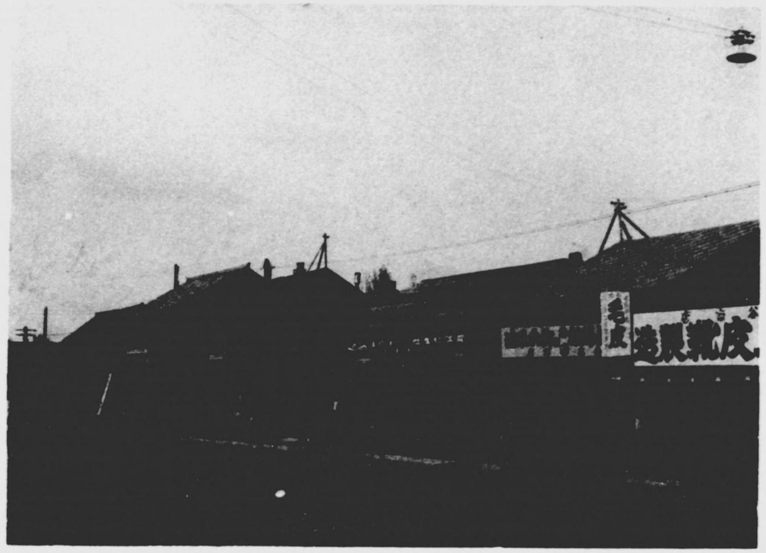
り通廣末

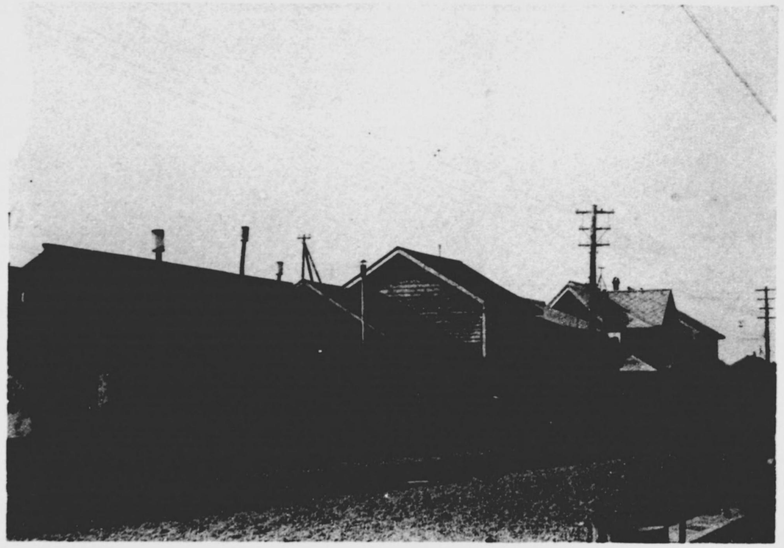
六のそ々街く輝に生甦

旭通り の一部と驛附近

越生に輝く街その七

中央通りと繁盛り附近

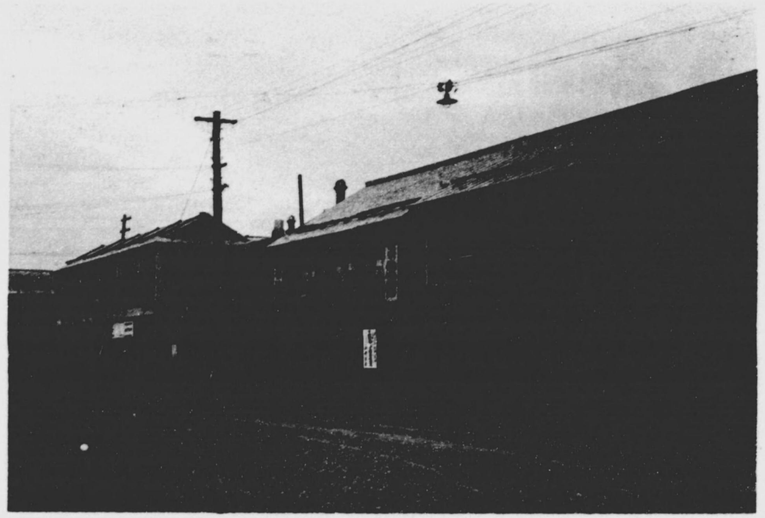




生甦に輝く街々のハ

■榮通り附近■

九のそ々街く輝に生甦

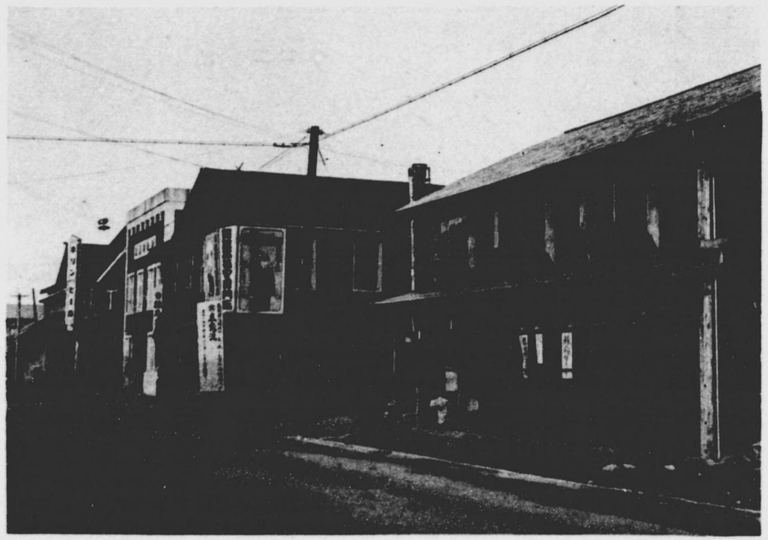


榮通り の一部

十のそ　ら働く輝く生題

役場附近の一部

生甦に輝く街々 その十一



末廣通り附近と記念通りの一部

二十のそ々街く輝に生甦

り通廣末

昭和十三年十二月十五日印刷
昭和十三年十二月二十七日發行

編者　美唄町　小松智一

發行所　美唄町　小松寫眞館

印刷所　札幌市大通西五丁目　中西寫眞製版印刷所
電話一九四七番　三一九一番

印刷者　札幌市大通西五丁目　中西吉之助

393
7